

## ダヴィンチ手術について

～前立腺全摘手術から開始して、  
5年間の歩み～

私が当院に着任してから、はや6年が経とうとしております。これまで、多くの患者さんや病院スタッフに恵まれダヴィンチ手術を継続してこられました。2012年1月にダヴィンチ手術を開始してから2017年9月までに、300人以上の患者さんにダヴィンチ手術を行わせていただきました。泌尿器科におけるダヴィンチ手術について、5年間の歩みについて報告します。

### ダヴィンチ手術とは

ダヴィンチ手術とは、最先端の手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた手術のことです。この「ダヴィンチ」には、4本のアームがあります。4本のうちの1本には、内視鏡を装着します。内視鏡は10倍ズームでハイビジョンの高画質かつ3Dの立体画像を映し出すことができます。よって、1～2cmの傷から体内に内視鏡を挿入すると、手術執刀医は自分が、こびとになって体内に入り込んだような映像を見ることができます。

4本のアームの残りの3本には、手術操作をする鉗子を装着します。これは手術執刀医の手や指の代わりです。私が前立腺の手術をする場合は、2本の右手と1本の左手を操作しています。執刀医の好みによって、1本の右手と2本の左手として操作することも可能です。手術操作をする鉗子には様々な先端形状があり、組織を把持する・剥離する・切断する・焼灼する・縫合するなど用途に応じて使い分けています。

現在、ダヴィンチ手術が保険適用されているものは2つあります。1つ目は、前立腺がんに対する前立腺全摘手術、2つ目は、腎臓がんに対する腎部分切除術です。2つとも泌尿器科の手術ですが、従来の方法では体の奥深くを手術する際に、様々な

泌尿器科  
部長  
黒川 寛史

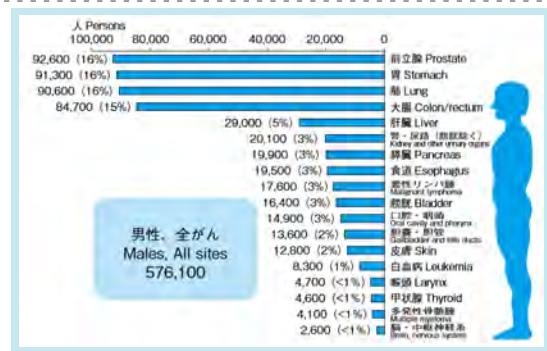


リスクがありましたので、より安全に手術を行うためにダヴィンチ手術が保険適用されたのです。



### 前立腺がんについて

前立腺がんは近年増加傾向にあり、男性のがん罹患数の部別比較では、2014年には3位でしたが、2015年と2016年には第1位に上昇しています（公益財団法人がん研究振興財団の統計による予測推計値）。がん自体は、ゆっくりと進行することが多く、治りやすいとも言われています。しかし、発見が遅れ進行してしまうと、骨など他の臓器に転移することもあります。早期に発見し適切な治療を行うことで完治も可能です。



▲2016年の部別予測がん罹患数

### 前立腺がんのダヴィンチ手術について

2012年4月に保険適用されましたが、私たちは2012年1月からダヴィンチ手術を開始しました。2017年9月までに270人以上の患者さんに手術させていただいた実績があります。手術を積み重ねる中で、患者さんの負担を減らすための独自の工夫もおこなってきました。泌尿器科学会などで全国的にも評価をいただきましたが、前立腺を全摘